

「記念日に続く道」

株式会社新宿高野 立川ルミネ店 丹羽 亜有実

私がお客様に初めてお会いしたのは、ここで働き始めて二ヶ月程たった頃でした。まだまだ緊張していて、しつかりとした接客とは決して言えなかったと思います。私の名前を初めて覚えて頂き、私も初めて名前と顔を覚える事の出来たお客様でした。

その方は、いつも男の子と一緒に来店され、その日は奥様への誕生日ケーキを予約しにご来店されました。お母さんへのケーキをお父さんと一緒に選んでい男の子の姿はとても楽しそうでした。でも、私と話す時は、少し恥ずかしいよううで、お父さんにうながされながらメッセージやリボンの色を小さな声で教えてくれました。

その数カ月後、「妹が生まれて…」と、今度はお兄ちゃんになった男の子と一緒に、生まれた娘さんへのケーキを買いに来て下さいました。今日は僕が選ぶと張り切つて来たんです、とお父さんから教えて頂き、「そらちゃんは女の子だからピンク!」と、私に言ってくれた男の子は、少しだけ大きくなっているような気がしました。その数カ月後の本人の誕生日にもご来店頂き、メロンが好きな事や、誕生日にはメロンアンバーサリーのケーキを楽しみにしていた事、今度、小学生になる事など、色々なお話をしながら笑顔いっぱい帰られました。

その後も、何度かご来店頂いていたのですが、私のシフトが合わずなかなかお会いする事が出来ず、しばらくたった頃、格好よくおめかした男の子がショーケースの前に立っていました。あれ? と思い見ると胸に綺麗な造花がついていました。

「入学おめでとうございます」と、思わずショーケースの外側で声を掛けました。「ありがとうございます」。恥かしがり屋だった男の子は笑顔で私にしっかり返事してくれました。

そして、今年の四月、いつものようにお父さんと歩いてくる男の子の後ろに、小さな女の子の姿が見えました。私はビクビクして思わず「もしかして、そらちゃんですか?」と尋ねました。すると、「そうなんです。二歳になりました」と言われ、私は笑みがこぼれました。

私の仕事は毎日たくさんのお客様とお会いします。そして、毎日たくさんのお

お客様の大切な記念日を一緒にお祝いさせて頂いています。このお客様との関係の中で、成長していく子どもたちの姿を見て、改めて記念日のお祝いがどれだけ素敵な事なのか感じる事が出来ました。私とこのお客様は、ケーキ屋のお姉さんとそこのお客様です。でも、私はこの家族の一生に一度しかない記念日を通してたくさんの笑顔をもらいました。そして、その大切な記念日の思い出には、私の書いたプレートやお店のケーキがみんなの中央にあったのだと感じる事ができ、とても嬉しくなりました。

接客は一期一会です。たった数分の接客は、その方の一生のうちの一日の大切な記念日につながっている事を忘れず、これからも、私自身が嬉しくなれるようなお客様との関係を築いていきたいです。

この男の子がいつまでケーキを買いに来てくれるかは分かりませんが、これからも笑顔のお手伝いを一回でも多くさせて頂ければいいな…、と思っています。